

地域密着型サービス評価の自己評価!

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の声なき声を聞き、見えないところを察する」をホームの理念として、住み慣れた地域で安心した暮らしができることを目標に作り上げている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々のケアの実践に活かされるように、朝礼や毎月の職員会議で、皆で声を出して読み上げ意識づけを行っている。管理者はケアの実践を通して理念を具体化して職員と取り組んでいる	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームの見やすい所に、明示し、家族や地域の人々に分かりやすく説明している	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者と洗濯物を干している時、散歩に出かけた時は隣近所の方々と気軽に挨拶を交わしている。又行事がある時は、前日の準備などにも参加させていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(盆踊り等)に入居者様と一緒に参加させていただき、地域の人々と交流を深めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの近隣は高齢者の方が多い。防火訓練の度に避難の仕方等の参加を呼びかけ、区長さんを始めとして民生委員の方や、両隣の方々の参加を得ている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程・評価の意義の理解について、全職員が外部評価をもとにした改善に、できる項目から段階を踏んで取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議を3か月に1回開催して利用者の状況や、行事の報告を行っている。役場職員から、介護保険関係等の説明もあり、参加している家族の安心にもつながっている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当職員に運営推進会議の参加をお願いしている。他、ホームの現状や課題を報告して協力を求めている。必要に応じ、近隣の市町村との連携をとり、協力を求めている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、地域社協等(認知症家族の会でも)で開かれた権利擁護に関する制度を学び、利用者や近隣の人で必要な方の為、関係機関に相談している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	並列の病院の勉強会で学び、高齢者虐待防止法を皆の見える場所に掲示し、利用者様が虐待に合っていないかに注意を払っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を説明し、疑問点を尋ね、疑問のある方には、(特に料金)説明できる職員が対応している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付に利用していただけるよう玄関に苦情受付箱を設置している。また、ホームの利用者の家族に対し、毎年無記名のアンケート調査を実施している。アンケート結果の集計は母体の病院総務課に依頼して、ホーム側はどの方が記入したのか分からないシステムにしている。アンケートの意見をサービスの質の向上に役立てている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来てくださった時に近況報告をしている。又面会に来られない方に対しては電話等を利用し、近況報告を行っている。行事の様子など写真を掲示して見ていただいている。特に、健康状態に関しては、常に家族と連絡を取り合っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して、家族からの要望・意見を求める機会にしている。利用者の家族の方あてに毎年無記名のアンケート調査を実施している。その結果は母体である病院が行うためにホーム側はどの職員が記入したのか分からないシステムになっている。結果は勉強会で協議し、職員の意欲向上に繋げている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホームの職員に対し、今年から無記名のアンケート調査を実施した。結果は母体である病院が行うため、どの職員が記入したのか分からないシステムである。その貴重な意見を、勉強会で協議し、職員の意欲向上に繋げている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者に状況の変化があった場合は、代表者が病院等へ相談ができるよう手配をしてくださる。管理者やリーダーは、自主的に休日でも出勤し対応している。必要な場合は、パートの職員に出勤していただくよう調整に努めている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者のためホームの馴染みの職員の移動を行っていない。職員の事情でやむを得ない場合は、速やかに、ホームの理念を理解できる人を採用し、ダメージを防ぐ配慮をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内・母体病院での研修が積極的で職員の参加が多い。資格修得の為に勉強も行われており、職員を育てるシステムができています。研修後は復命書を記入し、毎月の職員会議で伝達している		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年4回は、同町内のグループホームと合同で運営推進会議を開催している。その時に、他のホームとの職員との交流が図れている。又今年度は各ホームの技術格差を軽減するために、職員の交換研修を予定している		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の提案や相談によって環境作りに取り組まれたり、夜間には「大丈夫ですか、困ったことはないですか」と電話をかけてくださる。そのことで夜間頼れる人がすぐそばにいてくださるということが、仕事に対する励みと安心感につながり、ひいてはストレスの軽減になっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は年2回の各職員の自己評価表と人事考課表をみて、努力や、勤務状態、実績を把握し、お礼や激励の言葉で働く意欲を持たせ、給料等にも反映させて下さっている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	「何でもできるのに何もさせてもらえん」とよく言われます。何か役に立ちたい・すぐ忘れてしまうので誰かに頼りたい。など同じような症状の人達との会話を聞くことで、本人の気持ちが分かり、そこから話を進める努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族にとって「親・伴侶の認知症を認めたくない」が本音のようで、当事者たちの繰り返しの言葉にいらだちを覚えておられます。又これからの生活の不安が先にたっているのが、よく見受けられる状況です。その家族・伴侶の立場で話を伺うように努力しています		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者会議で本人、家族出席のもとその時に必要としている支援を各担当者で話し合いをして、その方の生活歴、ニーズ、状況などを考慮しサービス利用等の対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の対応として、家族が信頼している現担当者が、本人に常時ついていて、新しい入居者や、介護者に本人を紹介して慣れただき、場の雰囲気に馴染んでいただいてから、徐々にサービスを開始していく工夫をしている		
、				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持ちあらゆる場面で助言や教えを受け、感謝の意を表したり、感心させられたことを素直に表し、入居者との信頼関係を築いている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何事も家族と相談し、痛みを分かち合い、本人の状態を常に知っていただき、ともに本人を支えていただいている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「今話題になっているCD[手紙]です。手紙の文を読みながらまるで母からのようで、感動して涙がこぼれました・・・」と家族から職員にCDと手紙のコピーをいただきました。こうしたやり取りが、家族との支えあいの一つに思います。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以来、利用者のレベルが下がってきているが、ショッピング中に馴染みの人に会った時や、馴染みの場所にお連れした時の表情は、ホーム内では見られないくらい素敵である。月に1回は馴染みの場所にお連れできるよう支援に努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を考慮し、座る位置を決めてお互いが必要とされていることを意識づけている。孤立気味の方には、誰の話でも聞いてくれる利用者に関わっていただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院が必要となられた利用者の場合契約が終了しても、職員が代わる代わる面会に伺い良くなられて又ホームに帰っていただくよう家族と共に励ましあっているいつまでも大切な方達です		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である「利用者の声なき声を聞き、見えないところを察する」をケアの基本におき、利用者のおもいに添えるよう努めている。おもいがくみ取れない場合は、家族や利用者から聞き取った生活歴を元に、さらに職員間で検討し合っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	折にふれ一人一人に密着していろいろ話してみると、環境や、暮らし方が把握できる。サービス利用の経過は、職員や家族と検討しモニタリングにまとめている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝礼時に前日と夜間の心身の状態を把握しその日の過ごし方を1日の流れと見合せながら、本人の状態に合わせながら、現状の有する力を出せるように一日を過ごしいただいている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族に意見を聞き、担当職員、医師、理学療法士などが参加してカンファレンスが行われ、多くの意見を反映した介護計画書となっている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員全員でモニタリングを行い、状態に変化があれば、家族、主治医等の意見を聞き見直しを行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員がその日のケアの実践や、気づきを申し送りノートや個別記録に記入し、情報を共有し、介護計画の見直しの検討をしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設でのリハビリをほぼ全員の利用者が行っており、残存機能低下防止に特に力を注いでいる。利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出など対応している。ショートステイの受け入れ態勢は整っているが、利用としては無い		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホーム推進会議において担当の地区の区長や民生委員との連携を深めている。必要時は、近隣の方や警察の方などをお願いして徘徊者の早期発見に協力していただいている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向の必要性において、いつでも他のサービスを利用できるよう家族や他のケアマネジャーと話し合っている。必要時は他のサービスや、施設の利用もしていただいている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護で地域包括支援センターとの連絡を図り、総合的にケアマネジメント等を協働している		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望に応じたかかりつけ医に受診している。受信時は職員や家族が付き添っている。週1回母体病院より看護師が訪問し、全利用者の状態把握をして、主治医に報告していただき適切なアドバイスを受けている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい母体病院のDrに、CTの画像を見せていただいたり、今後の予想を説明いただいたりして、相談・治療を受けている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回の母体病院から看護師が訪問。健康上の観察、相談を行っている。特に医療分野に関しては看護師資格のある職員を中心に健康チェックを行い、主治医との連携をとっている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合、主治医・看護師長と情報交換・相談・検討を行いながら、ホームでもお世話ができる状態になられた時点で退院されている。退院後も1日数回看護師が様子診に来られている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について、契約時に方針を説明して同意書をもらっている。終末期に向けた母体病院の協力体制は得られている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の介護について病院の看護部長より職員全員で講義を受け、できること、できないこと、言っていること、悪いこと等の見極めを指導していただいた。かかりつけ医に常に相談できる態勢づくりも行っている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	馴染みの介護支援専門員の顔がみえるよう、別の施設に代わられても、今までの担当職員とともに訪問し関係者と情報交換を行い、自然体で過ごせるよう、寂しくないよう、関係者につなぎダメージを防ぐよう努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誘導の声かけ等は、プライバシーを配慮して行われている。利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや、接遇に関する研修は母体病院で行っているため、数人で参加し、勉強会で伝達し、確認している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人一人が自分のペースで暮らせるよう支援し入居者の希望や関心ごとをできるだけ引き出す努力をし説明を行い自分で自己決定できるよう支援している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、利用者の体調や気持ちを配慮した支援を行っている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族が化粧品を揃えて下さるので、毎日お化粧をする人もいるが全員には、節目節目の折に勧めている。理美容は、家族の方が、定期的にお連れ下さる。そうでない方は職員が定期的に髪をカットしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に、調理、食事の準備や後片付けと一連の流れを楽しめるように工夫をしている。皆で手を入れたホームの菜園でできた野菜の皮むき、切り込みなどをしていただいている。昼食時は一緒にテーブルを囲み食事を楽しんでいる	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは、ホーム内は、禁煙のため、頻会に訪問される家族の車中で嗜んでいただいている。又、中庭ではテーブル、チェアを用意し、嗜めるようにもしている。飲み物やおやつは、10時と午後3時に提供している。手作りのものは、特に喜んで完食されている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、個人個人の排泄パターンを確認し、トイレの声かけと介助を行っている。全員、日中はトイレを利用されている。夜間のみおむつ使用の方がおられるが、覚醒されているときは、トイレの介助を行っている。おむつ利用の方は、起床時にトイレに座っていただくよう声かけを行いおむつを外している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を行っている。一人一人に関しては1日置きである。希望すれば毎日入ることができる。気の合う利用者と一緒に入り、歌ったりして楽しく入ることができる		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転の方はそれなりに対応し、(他の利用者の邪魔にならないよう)体調の変化を把握し、その人にあった休息の取り方を支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な能力を活かし、洗たくを始めとして野菜作り・部屋の掃除・洗濯物干し・たたみ等を用意している。又月1回の外食や、週末のドライブ等気晴らしの支援を行っている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人個人の家族よりおこずかいを預かり、希望があれば一緒に買い物に行って、その人に応じた金額を渡して買い物をお任せしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週5回は隣接する母体病院のリハビリに、土・日のドライブ又は菜園にと外出できる機会を多く作っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	週末のドライブは、家族が連れて行ったことのない名所のため、「こんな所は初めてじゃ、家族でも来たことない」と感激される。ひとりひとりの意見が聞かれないため、勝手に季節の名所にお連れしている。家族とはお墓参りによく出かけられる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望される時には電話をかけ、家族との会話を楽しんで頂いている。電話は自分で話せる人そうでない人がおられる。手紙も読める方と読めない方がいるが、その人に会った支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方の訪問は、たとえ名前が出なくても大変喜ばれる。そんな時は部屋なりホールなど好きな場所で過ごしていただいている。職員がお茶や、珍しいものをお出ししている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束にあたる行為はしていない。家族と相談の上転倒、転落予防のセンサーの設置はしている。職員は母体の病院での勉強会で身体拘束となる行為の研修を受けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は日中はかけていない。徘徊の利用者がいるが、気分や状態を観察して対応している		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はできるだけ皆の集まるホールで過ごしていただき、そこでの動きに注意を払っている。自室にいる人には職員が頻りに話しかけに入室して状態を把握している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な薬や洗剤、刃物等の物品は、保管場所が決められており、管理方法も明確になっている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な勉強会で転倒・窒息・誤嚥・徘徊を防ぐ為の知識を学んでいる。火災に関しては、年2回の防火訓練と避難誘導に取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故災害時マニュアル・緊急連絡体制マニュアルを作成して定期的に訓練をおこなっている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の避難訓練を年2回利用者・職員と行っている。避難訓練時は近隣の方や区長が参加して助言をもらっている。他にも通報訓練や初期消火など基本訓練を必要時に行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	今現在の状況を家族に話し理解してもらって、対応策について一緒に話し合う機会をもっている。又了解の署名もいただいている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	訴えのない利用者の少しの変化も見逃さないように、気づいたことや意見を出し合い情報を共有し、早めの対応に結びつけている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用する薬の目的や副作用について承知しており服薬管理簿や個人の管理箱をつくり、服薬の誤りがないよう対応している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時は、薬にばかり頼らず、水分補給や、植物繊維を多く含む食品をとってもらい、また散歩やリハビリなどで適度な運動を促す対応を行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯洗浄・うがい・週1回のポリデントで本人に応じた支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを行い、同時に3食事と2回のおやつ時の水分摂取量を確認しており、状態の変化に対応できるようにしている。栄養管理が必要な方に対しては、母体病院の栄養士の助言を聞いている。必要に応じ、高カロリー補助食を活用している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院と合同で感染症予防についての研修会が定期的に実施され、予防対策として手洗いやうがいが行われている。インフルエンザの予防接種も全員受けている。肺炎双球菌ワクチン接種も対応している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	母体の病院で実施される食中毒予防の勉強会に職員が参加して指導を受けている。新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホールの玄関に通じる入り口が車道に面しているため、交通事故などの危険性を回避するためにアコーディオンフェンスの設置をしたことにより、家族・近隣の人たちは安心して出入りをされている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みがなく、換気が行き届いている。採光や照明、冷暖房の温度調節も適切で、テレビやカラオケの音量等を注意したりしている。季節の花を生けたり、植栽して安らぎの空間を設けたりしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを用意し、テレビ観賞や、談話などをしていただけるよう、各自の性格・状況に配慮した場所の確保に努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用・愛着のある物を自由に持ち込んで頂いている。大切な仏壇を持ち込んでいる利用者は、毎朝の水かえが日課となっている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や廊下の窓を開けて空気の流れ替えをこまめに行い、冷暖房は、利用者の意向と外気温に合わせて温度調節を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリーで必要な個所には手すりを設置している。室内は家具の配置を考慮し、歩行等の支えになっている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の入り口には、写真入りの表札を掲示し、部屋を間違えたりしないように、又常に整理整頓を心がけ落ち着いた雰囲気過ごせるように工夫している		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭は広く自由に出入りが出来、洗濯物を干したり、散歩をしたり、花植え、水やり、庭掃除など職員と共に、活動している		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

国富町の中心地に近い母体の病院が隣接する利便性が良好な場所にホームは位置し、「私達はマザーハウスにおいでいただいた方々の声なき声を聞き、見えないところを察して安心できる安らぎの場所をつくります。」の高い理念をおき入所者と職員と一緒に・ゆっくり・楽しく暮らせるように常に明るくやさしい職員と一緒に幸せな生活を過ごしている。

又母体病院が隣接していることから、気軽に健康面の相談やリハビリを受けることが出来、身体機能の維持向上に前向きに取り組んでいる。地域の老人クラブが主催する各種教室に参加したり、気軽にホームに立ち寄ってくれたり、(近くの小学生も含む)又ボランティアの受け入れ等、地域との交流を積極的に行っている。

職員の献身的なケアと笑顔に支えられ、入居者は元気で生き生きと表情も明るい。